

授業科目		対象学科・専攻	年次	期別																														
発達心理学 Developmental Psychology		児童教育学科 幼児教育学専攻	1年次	後期																														
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員																															
講義	2	必修	鄭 暁琳																															
概要																																		
<p>乳児期から児童期まで各発達時期における心理的な特徴と課題を理解する。 乳幼児の運動発達・言語発達・認知発達・社会発達について理解する。 それらの背後にある環境の重要性と、相互関係について理解する。 子どもの発達における保育者の役割について理解する。</p>																																		
到達目標																																		
<p>(1) 保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。 (2) 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。 (3) 乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。</p>																																		
授業内容とすすめ方																																		
<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;">1 オリエンテーション</td> <td>— 発達心理学で何を学ぶか</td> </tr> <tr> <td>2 発達のしくみ</td> <td>— 遺伝と環境、人間発達の特殊性</td> </tr> <tr> <td>3 知覚の発達</td> <td>— 子どもの知覚と記憶</td> </tr> <tr> <td>4 思考の発達</td> <td>— ピアジェの認知発達理論</td> </tr> <tr> <td>5 愛着</td> <td>— 母子相互作用、愛着、愛着障害</td> </tr> <tr> <td>6 自己の発達</td> <td>— 自己意識の発達と自己制御</td> </tr> <tr> <td>7 情動の発達</td> <td>— 情動を構成するものと情動の社会化</td> </tr> <tr> <td>8 社会的認知の発達①</td> <td>— 他者理解の発達、愛他行動の発達</td> </tr> <tr> <td>9 社会的認知の発達②</td> <td>— 道徳性の発達</td> </tr> <tr> <td>10 言語発達①</td> <td>— 言葉の発達とコミュニケーションの発達</td> </tr> <tr> <td>11 言語発達②</td> <td>— 書き言葉の発達</td> </tr> <tr> <td>12 遊びの発達と友たち関係</td> <td>— 子どもの遊びとは、友だち関係の発達</td> </tr> <tr> <td>13 さまざまな発達の障害①</td> <td>— 身体的障害、言葉の障害、発達の障害</td> </tr> <tr> <td>14 さまざまな発達の障害②</td> <td>— 特別支援</td> </tr> <tr> <td>15 全体のまとめ</td> <td></td> </tr> </table>					1 オリエンテーション	— 発達心理学で何を学ぶか	2 発達のしくみ	— 遺伝と環境、人間発達の特殊性	3 知覚の発達	— 子どもの知覚と記憶	4 思考の発達	— ピアジェの認知発達理論	5 愛着	— 母子相互作用、愛着、愛着障害	6 自己の発達	— 自己意識の発達と自己制御	7 情動の発達	— 情動を構成するものと情動の社会化	8 社会的認知の発達①	— 他者理解の発達、愛他行動の発達	9 社会的認知の発達②	— 道徳性の発達	10 言語発達①	— 言葉の発達とコミュニケーションの発達	11 言語発達②	— 書き言葉の発達	12 遊びの発達と友たち関係	— 子どもの遊びとは、友だち関係の発達	13 さまざまな発達の障害①	— 身体的障害、言葉の障害、発達の障害	14 さまざまな発達の障害②	— 特別支援	15 全体のまとめ	
1 オリエンテーション	— 発達心理学で何を学ぶか																																	
2 発達のしくみ	— 遺伝と環境、人間発達の特殊性																																	
3 知覚の発達	— 子どもの知覚と記憶																																	
4 思考の発達	— ピアジェの認知発達理論																																	
5 愛着	— 母子相互作用、愛着、愛着障害																																	
6 自己の発達	— 自己意識の発達と自己制御																																	
7 情動の発達	— 情動を構成するものと情動の社会化																																	
8 社会的認知の発達①	— 他者理解の発達、愛他行動の発達																																	
9 社会的認知の発達②	— 道徳性の発達																																	
10 言語発達①	— 言葉の発達とコミュニケーションの発達																																	
11 言語発達②	— 書き言葉の発達																																	
12 遊びの発達と友たち関係	— 子どもの遊びとは、友だち関係の発達																																	
13 さまざまな発達の障害①	— 身体的障害、言葉の障害、発達の障害																																	
14 さまざまな発達の障害②	— 特別支援																																	
15 全体のまとめ																																		
テキストおよび 参 考 文 献	テキスト：『発達心理学』山口短期大学 参考文献：『新乳幼児発達心理学』 福村出版																																	
メ ッ セ ー ジ な ど	子どもの発達の特徴や個々の発達段階の課題について理解することによって、子どもに関する理解が深まり、子どもの発達についての関心が高まる。																																	

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (70%)	70%
(2) 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。		
(3) 乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。	ワークシートの全ての項目が妥当な内容で詳しく記述されている。	ワークシートの全ての項目が、大きく間違っていない内容。	ワークシートの半数の項目が空欄か不適切な内容。	2/3以上の項目が空欄か不適切な内容。あるいは未提出。	授業への取り組み・グループ討議への参加（関心・意欲・態度）(30%)	30%